

1 平成 22 年 3 月期の連結業績（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）

（百万円未満切捨て）

（1）連結経営成績

（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22 年 3 月期	69,337	17.4	2,319	46.9	2,522	44.0	1,338	47.8
21 年 3 月期	83,976	1.5	4,368	7.6	4,503	8.6	2,565	3.6

	1 株当たり 当期純利益	
	円	銭
22 年 3 月期	88	81
21 年 3 月期	160	39

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1 株当たり純資産	
	百万円	百万円	%	円	銭
22 年 3 月期	64,420	27,892	41.8	1,787	59
21 年 3 月期	73,447	26,719	35.1	1,709	77

（注） 連結対象会社は 6 社

2 平成 23 年 3 月期の連結業績予想（平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日）

（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通 期	71,000	2.4	2,700	16.4	2,850	13.0	1,500	12.1

上記の予想は本資料の作成日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

3 当期の事業の概況および次期の見通し

（1）当期の事業の概況

建設業界におきましては、建設分野への公共投資の抑制がさらに強まり、また、民間設備投資やマンション建設も低迷したため、受注競争はさらに激しさを増して推移しました。

重仮設事業では、地下、土木工事の減少が顕著となり、重仮設資材の種類によっては需要と供給のバランスが大きく崩れ、賃貸単価の大幅な下落を招くこととなりました。このような環境の中、売上高や利益を確保すべく、工事物件ごとに当社独自の提案を積極的に行なうなど、他社との差別化を図りながら受注に努めました。また、当社の強みでもある商品販売にも注力してまいりました。工場部門においても、修理・加工能力の向上を図り、コスト削減と顧客対応力の強化に努めました。

補強土事業では、工事物件情報の早期収集から計画、引合、発注までの流れを確実にフォローすべく組織的な体制作り注力しました。また、新商品として施工性と経済性を大幅に向上させた緑化テールアルメ工法のEG6を新たに開発し、商品力の強化に努めました。主力のテールアルメ工法においては、工事量の減少する中、コスト削減に努めて利益の確保を図ってまいりました。

技術部門では、重仮設と補強土の枠を超えて、両事業の技術的知識とノウハウの共有化を図り、技術対応力の向上を図ってまいりました。また、顧客からのクレームについて、全社レベルの管理を強化し、組織横断的なクレーム対応力とクレーム発生の未然防止に努めてまいりました。

11月には、経営基盤の強化を図るべく事業領域の拡大を目的に、鋼管杭、鋼管矢板等の圧入工事や山留工事を施工する伸栄株式会社の発行済株式の全株を取得いたしました。

(2) 次期の見通しと課題

建設業界では、公共事業の更なる縮減が見込まれており、厳しい価格競争の継続が余儀なくされるものと思われま

す。こうした事業環境の中、当社は、市場から求められている品質、低価格、そして専門性を常に提供でき、顧客満足度を向上させ、顧客から選ばれる企業となるべく、経営の基本に立ち返り、真摯に必要な対応策に取り組んでまいります。また、丸紅建材リース株式会社との間で、重仮設資材の計画的な供給補完体制の構築や海外での合弁会社の設立等を骨子とする業務提携を行ないました。

4 役員の異動(平成22年6月25日付)

(1) 新任取締役候補

村田 和隆 (現 執行役員 管理本部長)

(2) 退任予定取締役

松田 紘和 (現 大阪本店管掌)

三宅 秀樹 (現 常務執行役員 技術開発部・両事業本部技術部管掌)

追って、両氏は当社顧問に就任の予定です。

以上